



Walk with Children

めぐろ

大人 子供

せいび

220号
2026年2月

サレジオン国際学園目黒星美小学校

ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実であり、
ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。 (ルカ 16章 10節)

校長 シスター 小島 理恵

1月中旬、通勤途中に、一軒の家の庭先にすでに咲き始めていた白梅を見つけました。ああ、もうこんな季節になったのか、と感慨深いものがありました。春の訪れを告げる花の一つである白梅を目にしますと、今年度も終わりが近づき、6年生の小学生としてのゴールが目前に迫っている事、3か月後には新1年生を迎えている事など、様々な思いが交錯します。時間は刻一刻と過ぎていっていますが、保護者の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今月ご紹介している聖書の言葉は、とても分かりやすいです。日常生活の中での小さな行動の一つひとつが、最終的には大きな影響力を持つことを強調しています。この1月末から2月にかけて、教員は子ども達に、毎日こつこつと漢字の学習をしていくという地道な努力が、漢字検定の準備になると声をかけています。しかし、ただ物事をこなしていくだけでは足りません。もう一つの大事なことを、マザー・テレサは教えています。

「大切なのは、どれだけたくさんしたことや偉大なことをしたかではなく、どれだけ心をこめたかです。」
ただ単に仕事や学習、物事をこなすだけでなく、どれだけ心を込めて行うのか…。毎日の生活を振り返ってみますと、時間に追われ、気付くと空には月や星が輝いている、そんな日々になっていないか…。振り返りながら、小さな事を大切にしている日々を送りたいと思います。

父親聖書講話・チャイルドスタディ

金持ちが天国に入るのはむずかしい

マタイ 19章 23-24節

副校長 細谷 勇太

12月に児童会の呼びかけによって、クリスマス助け合い運動が実施され、登校時間帯には献品を受け付ける高学年の元気な呼びかけや御礼の言葉が校内に響いていました。保護者の皆様にも多大なご協力をいただきましたことを御礼申し上げます。「やもめの献金」が心に残る子どもも多いように、自分の持っているものを分け与えること、必要としている人のために役立たせることの意義深さを新約聖書から学び、実践にうつそうとしているのだと思います。

父親講話では、ジャーナリストである池上彰氏の著書『聖書がわかれば世界が見える』を、松尾貢神父様（碑文谷教会主任司祭・サレジオ会）持ち前の視点から解説を加えていただきながら読み深めています。12月には「金持ちが神の国に入るより、らくだが針の穴を通る方がまだ易しい」というみことばについても深める機会をいただき、子ども達が取り組んでいる助け合い運動の本質について、お父様方も心に沁みて考えることができたのではないかと感じました。

今年度も終盤になり、チャイルドスタディや父親講話は、残すところあと1回ずつになりました。どちらも毎回多くの保護者の皆様に参加していただいています。ありがとうございます。あと1回、そして次年度も奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

クリスマスの集い・3年聖劇

聖劇に向けて、学年全員で協力して練習に励みました。一人ひとり自分の役割を意識し、朝からみんなで練習を積み重ねて本番を迎えることができました。イエス様のご誕生を伝えるという大きな使命を果たすため、精一杯がんばりました。



はじめてのせいげき

3年

わたしは10月ぐらいからせいげきの練習を始めました。わたしの役はナレーターでした。10月の練習では、役ごとに分かれるのではなく、クラスみんなで台本を読み、11月から役ごとに分かれて練習をしました。

まずはじめに、発声練習をしました。発声練習とは、日本語の音をはっきり言えるように練習することです。その後は、じゅんばんに一人ずつ読み、次は覚えて言う練習をしました。これをくり返し練習したら、みんなで流れをかくにんしました。リハーサルではさいしょからさいごまで通してやりました。先生たちと立ちいちを確認しました。他にも先生方がいろいろ直してくれました。

本番ではわたしはあまりきんちょうしませんでした。とても楽しかったです。わたしの出番は短かったけれど、ベストをつくしました。



せいげき

3年

ソロで歌う役を決めるオーディションの1回目にきんちょうして、大きな声で歌うことができませんでした。でも2回目のオーディションまで行くことができたので「きっとイエス様はおめぐみをくださって、もう1度チャンスくれたんだ」と思いうれしくなりました。

せいげきの配役発表の時、天使役と言われてびっくりしました。家に帰ってお母さんに「きっとオーディションをがんばっていたからえらばれたんだよ」と言われて、わたしは「きっと神様がわたしを天使の役にしてくださったんだ」と思いました。

本番のさい後にみんなからはく手もらった時、わたしが今まで一生けん命練習したことをイエス様にとどけることができたと思い、とてもうれしかったです。

せいげき

3年

わたしは、天使の聖歌隊のハンドベルで、高い音の担当です。最初は上手くできるかドキドキしました。また、楽譜を覚えられるのか心配でしたが、朝練やお家で練習をし、だんだん慣れていきました。しかし、間違えてしまう時もあります。もう少しで本番だから失敗してはいけないと思うと、不安になることがありました。何度も「もうできない。」と思いましたが、ハンドベルのみんなが一生懸命に練習しているところを見ると元気が出ました。

そして、本番の日。ハンドベルをずっと握っていたので疲れましたが、お父さんやお母さんの姿を見ると勇気が出て、演奏も歌も失敗せずできました。聖劇が終わっても、ドキドキしていましたが、楽しかったです。



ジュニア・オーケストラクラブ

ジュニア・オーケストラクラブは、4、5、6年生の楽器や音楽が好きな39人が集まって活動しています。上級生が下級生に教えたり、お互いに今の演奏がどうだったか振り返ったりしながら楽しく音楽を奏でて、学校行事や校外の音楽会などで演奏させていただいています。

心を一つにしたクリスマスの集い

5年

12月19日にクリスマスの集いがあり、「Joy to the world」をオーケストラで演奏しました。クリスマスの集いの前には特別練習がありました。その中で、体育館で3年生の劇と一緒に練習させていただき、どのタイミングで演奏するのかなどを確認しました。この曲を初めて演奏する4年生ともいっぱい練習しながら、みんなで心をどんどん一つにしていきました。

ついに本番。今までの練習の成果を発揮できるように一生懸命頑張って演奏しました。全校児童と合わせられるか不安でしたが、練習の通り演奏できてよかったです。このクリスマスの集いを通して、これからもオーケストラの一員として頑張っていきたいと思いました。



クリスマスミサ ・ 聖歌隊

聖歌隊は、51名の歌うことが大好きな4、5、6年生が集い、活動しています。毎朝の聖歌当番や、学校行事、校外の音楽会など祈りの心を大切に歌っています。19時の碑文谷教会のクリスマスミサでは、多くの聖歌隊の卒業生も集い、中には親子で歌う聖歌隊員も見られました。貴重な機会をいただき感謝しながらご奉仕させていただいています。

聖歌でご奉仕したクリスマスミサ

6年

私は、12月24日のサレジオ教会のクリスマスミサに、2階のパイプオルガンの近くで聖歌隊の一員として参加し歌いました。聖歌隊の歌声が、心ひとつに響くように昼休み練習や、定期練習以外にも練習を重ねて頑張ってきました。ミサに参加している人やイエス様に歌声が届くように心を込めて歌いました。また、聖歌隊で活動していた先輩方も大勢集まり、共に「パニス アンジェリクス」や「リジョイス」などの歌を歌いました。今回は、ほぼ全員の隊員が参加することができたので良かったです。来年もクリスマスミサで歌のご奉仕をするのが楽しみです。